

B型肝炎ウイルス母子感染防止に関する研究 (分担研究：小児肝疾患に関する研究)

1. HBIG, HBワクチン併用によるHBV垂直感染予防

富樫武弘, 柴田睦郎, 松本脩三

要約： 国家事業方式によるHBIGとHB ワクチン併用のHBV垂直感染予防措置を受け1年以上経過を追った児136例中、4例(3.0%)がキャリア化した。この成績は以前に行なわれたcombination prophylaxisと同等(116例中6例 キャリア化5.2%)の成績であった。

見出し語： HBIG, HB ワクチン, 母児感染予防

研究方法： 昭和61年1月から平成2年12月までの5年間に北海道内において、HB_e抗原陽性妊婦から出生した児に対してHBIG 2doses(生後0, 2カ月)、HBワクチン3doses(2, 3, 5カ月)を投与、接種した。これらの児から0, 1, 2, 3, 6, 9, 12, 18, 24カ月に採血して、血清中のHB_s抗原, HB_s抗体の有無を検索した。同時にGOT, GPTも測定した。3カ月以上はなれた2点でHB_s抗原が陽性でかつ最終採血時でも陽性であった児をキャリア化と判定した。HBIGは1dose 1ml中に200 IUを含有し、生後0, 2カ月時に筋注し、HBワクチンは(血漿由来のものは1dose 0.25ml中に10 μ g抗原蛋白を含有し、リコンビナントワクチンは1dose 0.25ml中に5 μ gを含有する)生後2, 3, 5カ月に皮下接種した。

結果： この方法によって12カ月以上 follow upされた児は136例あり、キャリア化したものは4例(3.0%)、12カ月時点でHB_s抗体を保有していたものは124例(91.2%)であった。うちHBワ

クチンがリコンビナントであったものは29例、キャリア化0、全例12カ月時点でHB_s抗体を保有していた。

所属： 北海道大学医学部小児科学教室

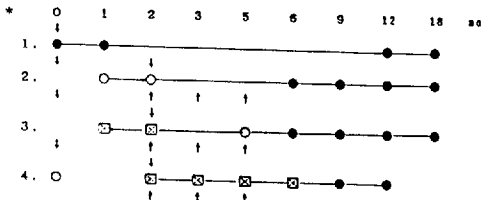
Department of Pediatrics, Hokkaido University School of medicine.

A. 対象

昭和61年1月以降、HBe抗原陽性HBVキャリア妊婦から出生し、HBIG 2 doses (生後0、2カ月)、HBワクチン 3 doses (2、3、5カ月)を投与、接種され、1年以上follow upされた児 136例

成績

- 1) 総数 136例
 キャリア化 4例* (3.0%)
 HBs抗体陽性者(1年時) 124例 (91.2%)
- 2) リコンビナントワクチン接種者 29例
 キャリア化 0例 (0%)
 HBs抗体陽性者(1年時) 29例 (100%)



B. 対象 HBe抗原陽性HBVキャリア妊婦から出生し、6カ月以上follow upされた児 202例

成績	例数	HBsAg	antiHBs	感染率
コントロール群				
HBs/anti HBs -/-	22	1	3	0
-/+	105	0	4	4
HBIG群				
-/-	10	0	0	0
-/+	65	0	1	1

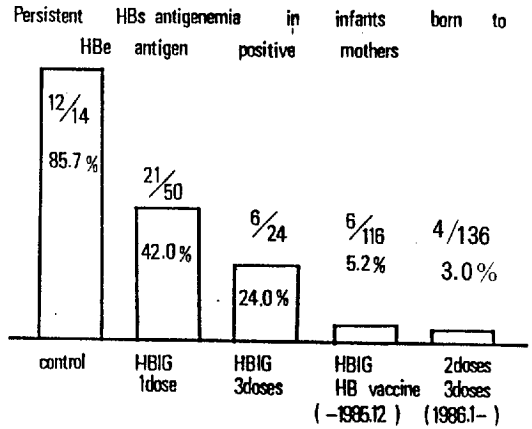


図1. HBe抗原陽性妊婦から出生した児の1年後のキャリア化

考察：昭和57年5月から59年7月までにHBe抗原陽性HBVキャリア妊婦から出生して生後0、1カ月にHBIGを2doses筋注投与、2、3、6カ月にHBワクチンを3doses皮下接種された児116例の生後12カ月時点のキャリア化率は5.2%であった。またHBs抗体陽性は97例(83.6%)であった。この成績と比較して国家事業方式によるHBV垂直感染予防は児のキャリア化阻止効果は同等と評価できた。今後リコンビナントワクチンの効果を評価する必要がある。

この成績は北海道内以下の12病院の産科・小児科において行なわれたものである。

北大医学部附属病院，聖母会天使病院，札幌南病院，札幌厚生病院，市立札幌病院，札幌鉄道病院，市立小樽病院，帯広厚生病院，釧路日赤病院，北見日赤病院，苫小牧王子病院，函館中央病院。

文献：

- 1) 富樫武弘ら：HBVの母児感染とその予防。臨床とウイルス，14：417，1986。
- 2) 富樫武弘ら：B型肝炎ウイルスの感染予防とHBIG。臨床とウイルス，16：270，1988。

2. HBe 抗原陰性HBVキャリア妊婦から出生した児に対するHBIG投与の効果

富樫武弘，松本脩三，柴田陸郎，沢田博行，古賀康嗣

要約：HBe 抗原陰性HBVキャリア妊婦から出生した児に対してHBIGを1dose投与することによってHBV母児感染の予防効果を検討した。6カ月以上経過を追った児75例中HBV感染が2例(2.7%)にみられた。この成績は以前の対照に比して(127例中12例感染，9.4%)低率であった。

見出し語：HBIG，HBe 抗原陰性，母児感染

研究方法：昭和61年2月から平成3年1月までに北大医学部附属病院でHBe 抗原陰性のHBVキャリア妊婦から出生した児に対してHBIG(1ml中HBs抗体200IU含有)を1ml生後できるだけ早期に筋注した。これらの児から0,1,2,3,6,9,12カ月の7点に採血して血清中のHBs抗原，HBs抗体の有無，GOT,GPTを測定した。SGOTが上昇しかつSGPT値が100IU以上に上昇した場合、肝炎発症と診断した。

成績：この方式で6カ月以上follow upされた児は75例であった。母親がHBe 抗原，抗体とも陰性であった10例には感染者はいなかった。母親がHBe 抗体陽性であった65例には一過性HBs抗原陽性者1例、持続的HBs抗体陽性者が1例みられた。肝炎発症者は0であった。

考察：昭和51年11月から57年7月の約6年間にHBe 抗原陰性HBVキャリア妊婦から出生し、HBIGの投与を受けずに生後12カ月以上自然経過を追跡された児は127例であった。これらのうちHBe 抗

原・抗体共に陰性の妊婦から出生した22例の児に1例のキャリア化、3例のHBs抗原一過性陽性、1例の肝炎発症がみられた。HBe 抗体陽性妊婦から出生した105例の児に4例のHBs抗原一過性陽性、4例のHBs抗体持続陽性、3例の肝炎発症がみられた。3例の肝炎発症者のうち1例はHBs抗体持続陽性例であった。キャリア化、HBs抗原一過性陽性、HBs抗体持続陽性例をHBV感染者とすると非投与の127例中12例9.4%が感染者となった。一方この度のHBIG投与群の感染者は75例中2例(2.7%)であった。

文献：

- 1) 富樫武弘ら：HBVの母児感染とその予防。臨床とウイルス，14:417, 1986.
- 2) 富樫武弘ら：HBe 抗原陰性のHBVキャリア妊婦から生まれた児の自然経過と抗HBsヒト免疫グロブリン製剤による感染予防効果。日小誌，90:2748, 1986.
- 3) 富樫武弘ら：B型肝炎ウイルスの感染予防とHBIG。臨床とウイルス，16:270, 1988.

Prevention study of HBV transmission from
mothers to their infants

1. Combination prophylaxis of HBIG and HB vaccine for prevention of HBV transmission from mother to infant

Togashi, T.* Shibata, M. Matsumoto, S.,

A hundred and thirty six babies born to HBe Ag positive HBV carrier mothers were administered 2 doses of HBIG (0, 2 months of age) and inoculated 3 doses of HB vaccine (2, 3, 5 months of age) in the hospitals affiliated to our medical school under the national program for the prevention of vertical transmission of HB virus. Among

them 4 infants (3.0%) became HBV carrier state at 1 year of life. The efficacy of this type of combination prophylaxis is as same as that of our previous study for prevention of the HBV vertical transmission, Further study about the efficacy of recombinant HB vaccine is needed.

2. HBIG prophylaxis in babies born to HBe antigen negative HBV carrier mothers

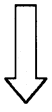
Togashi, T.* Shibata, M. Matsumoto, S. Sawada, H. Koga, K.

To evaluate one dose of HBIG injection, 75 babies born to HBe antigen negative HBV carrier mothers were administered 1 dose (200 IU/ml) of HBIG and were followed up for more than 6 months.

Among them one baby became positive for anti-HBs persistently. As compared with

9.4% (12 out of 127 babies) in non-treatment group, the mother to infant infection of HBV was scarce in the HBIG group (2 out of 75 babies 2.7%).

* Dep. of Pediatrics Hokkaido University School of medicine



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:国家事業方式によるHBIGとHBワクチン併用のHBV垂直感染予防措置を受け1年以上経過を追った児136例中、4例(3.0%)がキャリア化した。この成績は以前に行なわれたcombination prophylaxisと同等(116例中6例 キャリア化5.2%)の成績であった。